



熊本銀行ふるさと基金から30万円の助成

YMCA フィランソロピー協会が「第1回熊本銀行ふるさと振興基金」(*)・地域振興部門の助成者として採択され、「設立20周年記念交流キャンプ」に対し上限満額30万円の助成を受けました。

3月20日(金)、熊本銀行本店ホールで行われた助成金の贈呈式では、16の助成団体を代表して、事務局長の岡成也さんから助成への感謝と各助成活動の成果に対して期待が述べられました。(巻頭言参照)



助成金贈呈式にて

親を離れて生活を送る児童養護施設の子どもたちに、企業で働く大人との出会いや自然とのふれあいを通じて豊かな心を育ててもらおうと、2003年に交流デイキャンプをスタート。キャンプ実施のためにチャリティボウリング大会が企画されました。

「交流キャンプ」はこの「交流デイキャンプ」を、20周年を記念し1泊2日で行うというもので、9月5日・6日に児童養護施設菊水学園の児童ら約40名を阿蘇に招待し、カヌー体験や心身両面でセラピー効果のある乗馬等が実施される予定です。

*一般財団法人ふくおかフィナンシャルグループ文化芸術財団 (FFG 文芸財団) の助成金事業。熊本、福岡、長崎の3県で、地域の産業・文化を支援するために助成を行う。今回が FFG 文芸財団と親和銀行ふるさと振興基金の合併後、初めての助成となった。

仕事帰りにボランティア

第13回チャリティボウリング大会

6月12日(金)、ワンダーボウル南熊本本店で「チャリティボウリング大会」が開催され、新入社員から社長まで——13企業・団体から23チームの約100名が参加しました。

企業人らしく名刺交換をしてゲームがスタート。ストライク1回につきプレイヤーが100円を募金する「チャリティストライク」やゲーム終了後に行われたチャリティ抽選会を通じて、5万円を超える募金が集まりました。

当日は、交流キャンプの招待施設である児童養護施設菊水学園施設長の松本孝一郎さんも参戦し、協会から目録が授与されました。募金や参加費の一部は、交流キャンプ開催のために役立てられます。

この大会のために賞品をご提供いただきました。

- (医)愛育会福田病院 株紙弘 亀井通産株
- (税)近代経営 熊本トヨタ自動車株
- 株熊本日日新聞社 株熊本銀行 株熊本放送
- コカ・コーラウエストベンディング株
- 株肥後銀行 富士ゼロックス熊本株
- リコージャパン株熊本支社 熊本 YMCA



Information

企業交流会 onビール列車

サントリー「ザ・プレミアム・モルツ」で乾杯！大人気のJR「爽快！ビール列車」を1両貸切運行。新たな人と情報との出会いのチャンスです。ビールと車窓からの景色を味わいながら、業種や立場を超えて交流を深めませんか！

日 程：2015年7月31日(金)
定 員：45名
参加費：6,000円

- ①熊本・八代間往復JR券 ②ビール飲み放題 ③お弁当代が含まれます。

集合・解散：

18：20 熊本駅前広場
(熊本駅電停そば) 集合
21：36 熊本駅着・解散(予定)



20周年記念交流キャンプ

乗馬、カヌー、植樹、ピザ作り…自然を満喫しながら交流するプログラムが盛りだくさん。阿蘇の雄大な自然に囲まれて、家庭を離れて生活する児童養護施設菊水学園の子どもたちとの交わりを深めましょう。

日 時：2015年9月5日(土)～6日(日)
会 場：YMCA 阿蘇キャンプ
参加費：1泊1人7,000円(昼・夜・朝・昼食事付)
日帰り参加は1人2,000円



会員企業・団体 (34社 2015年7月現在)

(医)愛育会福田病院	近畿日本ツーリスト(株)	(株)熊本銀行	西日本電材(株)
(株)エフエム熊本	(株)近代経営	(株)熊本放送	西日本電信電話(株)熊本支店
(株)紙弘	熊本朝日放送(株)	熊本ヤクルト(株)	(株)肥後銀行
亀井通産(株)	(株)熊本県民テレビ	コカ・コーラウエストベンディング(株)	日立キャピタルオートリース九州支店熊本営業所
(株)亀井ランチ	(株)熊本製綿所	(株)城野印刷所	富士ゼロックス熊本(株)
九州産業交通ホールディングス(株)	熊本第一信用金庫	(株)スーブル	(有)ゆうしん
九州電力(株)熊本支社	熊本電気鉄道(株)	中央印刷紙工(株)	リコージャパン(株)熊本支社
九州旅客鉄道(株)熊本支社	熊本トヨタ自動車(株)	(株)テレビ熊本	
九州労働金庫熊本県支部	(株)熊本日日新聞社	東光石油(株)	

良き企業市民の一員として、ともに活動する会員企業を募集中です。

(((お問合せ・お申込みは、YMCA フィランソロピー協会事務局まで)))

NEWS LETTER No.68

編 集：YMCA フィランソロピー協会事務局
編集協力：(株)城野印刷所
2015年7月発行



YMCA フィランソロピー協会

〒860-8739 熊本市中央区新町1丁目3-8
T E L 096-353-6397
F A X 096-324-7877
E-mail ymca.philanthropy@gmail.com

皆さまからの情報をお待ちしています。
○各企業のボランティアへの取り組み
○私のボランティア活動
○フィランソロピー協会への提案・質問(問合せ)など
左記の事務局まで、郵送またはFAX・E-mailにてお寄せください。

フィランソロピーとは
ギリシャ語の「人間愛」という言葉からきており、人間愛にあふれる社会を目指す、企業の社会貢献活動を表す言葉として使われています。

この印刷物は再生紙を使用しています。



YMCA フィランソロピー協会
事務局長

岡 成也さん

この度、記念すべき第1回めの「熊本銀行ふるさと振興基金」の助成にご採択いただきました。心より御礼申し上げます。

YMCA フィランソロピー協会は、阪神淡路大震災が発生し、後にボランティア元年と呼ばれた1995年に設立されました。「企業と企業人の社会貢献」を掲げ、20年にわたり県内におけるボランティア活動・企業の社会貢献活動の推進に努めてまいりました。

「交流デイキャンプ」は協会主催の社会貢献活動の一つとして2003年に開始し、これまでに招待した児童養護施設の子どもたちは10施設312名にのぼります。今年は20周年記念事業として、1泊2日の交流キャンプを9月に計画しています。子どもたちの心に寄り添い、心身両面へセラピー効果のある乗馬体験等、様々なプログラムを通して、子どもたちが楽しいひとときを過ごせるよう準備を進めているところです。「ふるさと振興基金」はこの活動のために活用いたします。

さて、私たちは数多くの深刻な社会的な問題に直面しています。一方、そうした課題解決のために、地域力の向上には大きな期待が寄せられています。助成によって、地域の発展・活性化のために様々な取り組みが行われることに感謝いたします。私共も、フィランソロピーの名が示すとおり、人間愛にあふれる社会の実現のためにこれからも取り組んでいく所存です。職場、家庭、学校、地域、それぞれの場所で、すべての人たちがいきいきと輝くことのできるよう、ぜひ地域社会の一員として、私たち一人ひとりが手を携えてまいりましょう。

※ YMCA フィランソロピー協会の「設立20周年記念交流キャンプ」が、第1回熊本銀行ふるさと振興基金・地域振興部門の助成対象として選定されました。この文章は、3月に行われた贈呈式での挨拶を基に編集したものです。

地域社会の一員として手を携えて



第20回 新入社員ボランティア入門講座

4月2日(木)・6日(月)・8日(水)、中央YMCA フリースペースで「第20回新入社員ボランティア入門講座」が開催されました。今回は、8企業・団体の95名の新入社員が参加。NPO法人ヒューマンネットワーク熊本から実際に車いすで生活する講師を迎え、食事介助や車いす介助を体験しました。

講師を務める日隈辰彦さんは、「20年前と比べ、社会制度も障がい者が自立できるようにと変化しました。これも、ボランティアを通して多くの方に障がいがあることに共感した結果、誰もが暮らしやすい社会へと変化したと思います。皆さんも身構えず、相手の立場に立って考えることの大切さを理解し、これから社会人として出会う様々な場面で活かしてほしいと思います」と期待を寄せました。参加した新入社員は、コミュニケーションの大切さ、相手の立場になって考えることの大切さを学び、「信頼関係が大切」「周囲に協力を呼びかける勇気を持ちたい」など、講座を通じて得た発見や気づきを共有しました。

食事介助体験



二人一組で食べさせる・食べさせられる役を交互に体験。コミュニケーションのとり方による感じ方の違いを実感しました。

車いす講習会



車いすのパーツや機能の説明を受け、車いすの扱い方を実践。安全に介助するための声のかけ方も学びました。

車いす体験



車いすの乗り方や押し方、段差や階段の昇り降りなどを体験。車いすの視点で交通やまちづくりについても考えました。

グループ討議



講座を振り返り、発見や気づきを発表。これからの社会生活で活かせるものの方や接し方を参加者同士で話し合いました。

参加者の声



株式会社 有江賢聖さん
学生時代にもボランティアを経験しましたが、基礎的なことを知らなかったと気づきました。今回、コミュニケーションを取ること、当事者意識を持つことの大切さを学びました。この体験を今後の報道の仕事に活かしたいと思います。



株式会社 谷口月美さん
車いすの試乗も、想像していた以上に大変でした。相手のことを考えることの大切さを実感しました。今回の体験を職場の同僚にも伝え、障がいのある方も高齢者も楽しく過ごしていただける店舗にしていきたいと思います。



株式会社 高橋一心さん
入院した時に車いすを経験したことがありますが、今回、路上に出て、少しの傾斜や段差で通行が困難になることが分かりました。建設の仕事なので、バリアフリーを考慮し、皆が快適に過ごせる建物を造りたいと感じました。

初めて「新入社員ボランティア入門講座」が開催されたのは1996年。前年10月に「第12回車いす市民全国集会」が熊本で開かれるのにあたって、協会が事前に車いす講習会を実施し、111名がボランティアとして集会に協力したことが発端。この経験を受け、協会から社員教育としてボランティア講座の開催を企業へ呼びかけました。すると、九州産業交通(株)から依頼があり、初めての企業内ボランティア体験講座が実現。ヒューマンネットワーク熊本の協力を得て、同社の新入社員42名が車いすを押し、車いすに乗る体験をしました。

「新入社員ボランティア入門講座」は、ヒューマンネットワーク熊本が従来学校向けに行っていた車いす体験講座をアレンジし、新たに食事介助体験を加えたもの。これまで20回にわたる講座の受講者は2294名にのぼり、世代を超えた共通体験として、また、若手社員同士の異業種間の交流の機会としても好評を得ています。



初めてのボランティア講座(1996年)

企業人と留学生の交流会

2月18日(水)、東部YMCAで開かれ、YMCA日本語学校の留学生18名と企業人17名が参加しました。「教育の大切さ」をテーマに、世界では学校に通えない子どもが5700万人にも達している状況を変えるためには何をすればいいの意見交換しました。

上級クラスの王曉璐さんは「企業の皆さんと会話して、日本語のレベルアップにもなり、日本人の考え方も分かりました」と日本語で発言。肥後銀行の里野愛美さんは「留学生の皆さんが自分の意見を持ち、発言する姿を見習いたい」、城野印刷所の桑野亮さんは「国により価値観は異なりますが、このような小さな話し合いが大切」と述べられました。



未来の森づくりデイキャンプ

3月15日(日)と4月19日(日)、YMCA阿蘇キャンプで「未来の森づくりデイキャンプ」が開催されました。九州電力㈱のボランティア活動「こらばらQでん」と熊本YMCAの協働プログラムで、九州電力社員、YMCA会員とその家族約100名が参加。YMCA阿蘇キャンプと石ヶ野キャンプ場で、ブルーベリーやオリーブ、山桜の木などの植樹を実施しました。

「子どもには大変な力仕事でしたが、自然にふれる貴重な機会になりました。植えた木の成長を楽しみに、また阿蘇に遊びに来たいですね」と九州電力の古賀勝さん。植樹の後はバーベキューを堪能し、子どもたちは手製のスナックパンや窯焼きピザを食べ、楽しい一時を過ごしました。



Report



2015年度年次総会

2014年10月17日(金)、熊本交通センターホテルで開催されました。事務局長の岡成也さんが「新しい価値を見出せる企業人のボランティアの裾野を広げたい」と挨拶し、(株)近代経営研究所の松村智之さんは「企業や地域のつながりを大切に、社会的な課題解決のために役立ちたい」と述べられました。続いて決算・会計監査報告、翌年度の事業方針計画の提案などがあり、いずれも承認が得られました。

続いて、日本フェアトレード委員会代表の清田和之さんがフェアトレードをテーマに講演。「消費国側が作物や価格も決めてきた。コーヒー文化を復活させて適正な取り引きを行い、スリランカの人々が頑張る仕組みを作りたい」と話されました。



第19回チャリティプチ駅伝

2014年11月23日(日・祝)、菊陽杉並木公園さんで開催され、企業・団体・児童養護施設の19チーム・ランナー95名が参加しました。

事前の申告タイムとの差を競う宣言タイムレースで、「レギュラーコース」と、パン食い競争やバラエティに富んだお題を次々にクリアしていく「お楽しみコース」の2コースで実施されました。児童養護施設の子どもたちは、沿道に並んでランナーにエールを送り、お楽しみコースでは大人の参加者と協力して課題をクリア。積極的にレースを盛り上げ、交流を深めました。

大会の参加費や寄付金、抽選会の益金は、児童養護施設や長期入院する子どもたちにクリスマスプレゼントを届けるため、また、子どもたちを支えるボランティア団体への寄付として役立てられました。